

花ごよみ 花ことば

新口家 花詩集

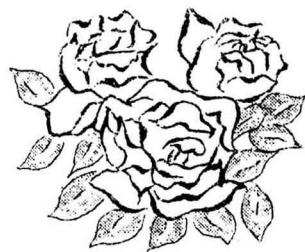


花 ごと み 花 こ と ば

野 口 家 嗣 花 詩 集

総目次

一月の花詩集	五
二月の花詩集	三七
三月の花詩集	六七
四月の花詩集	九
五月の花詩集	一三一
六月の花詩集	一六三
七月の花詩集	一九五
八月の花詩集	二二七
九月の花詩集	二五九
十月の花詩集	二九一
十一月の花詩集	三二三
十二月の花詩集	三五五
(品種名索引)	三九五



名 栗 川 詩 社 発 行

花詩集に添えて

日本音楽著作権協会々員
日本詩人連盟会員

野口家 嗣

一つの流行歌が二年も三年も歌われていた戦前と思い合わせ、最近の様にたまに歌謡曲などが受けても、それがほんの一次的に終ることを思うと、すぐにテレビやラジオで数多く発表されすぎるからと考えられますが、そればかりではなく最近の若い人達はそれほど流行歌も早く消化してしまうからで、又中学生の頃から音楽も一応作曲の勉強まで身につける時代です。やがて自分自身でその日その日の歌を、自分の思うままに作曲して歌う、そんな時ですでに來ているのではないでしょう。私はそうしたことを考え、かつて最も多くの詩人の詩情を湧かせ、又多くの作曲家のイメージを汲んだ花の歌に着目し、誰にでも曲がつけて頂ける、一日一花の一年三六六篇の花詩集に筆をとり、此処に八年間の歳月の中によくやくその完成を見た次第です。

作曲などとむずかしく考えずとも、この作品を毎日口ずさんで頂けたら、屹度その中に素晴らしい貴方のメロデーでこの作品が歌って頂ける様になることと存じます。そして作詩の上のメロデー、作品の中に流れる詩情、そこまで考えて貴方の調子に合った歌を作って歌われたらどんなに素晴らしいものでしょうか。この花詩集の中の作品にも、一流作曲家の作曲したもの（索引に附記）なども何篇あります。又島倉千代子さん等にステージで歌って頂いたものもレコード吹込となったものの中にもありますが、それはそれとして、この作品のほとんどが、皆様に親しみの深い花言葉にその内容を盛って作詩されて居りますだけに、この一篇の詩を皆様方のお使りに添えて頂いても、どんなにか楽しんでいただけることかと存じます。なおこの花詩集で、皆様は何時となく

花の知識をも得て頂ける処が多いと思いますので、花の葉も一応添えてみました。特にこの花詩集の作品は、祝祭日及その季節季節に合った花をその日その日に組んで、この花詩集を花ごよみ花言葉の両面から一層効果的なものと致してみました。

更に若い人達の情熱はもとより、子供から老人、時には盲目の方が花に感じるその姿まで、その作詩に広く筆をむけて来ましたので、必ず今の皆様のお気持ちにふれるものもこの中に何篇かあることかと信じて居ります。詩の良さというものの曲の良さというものも、評論家が評価し、それに大衆が雷同してしたふりをするそんなものでは決してないと思います。丁度皆様が皆様の体に合った着物を選ぶ様に、貴方の歌は今の貴方の感覚にふれた歌を自分が撰んで歌われることで、そうした広い立場の詩を作る為に、私は八年もの歳月をもって悲しい日、嬉しい日、淋しい日、そうしたその時々感覚を花に寄せて、この花詩集の作詩をまとめてみたものです。今の貴方につまらぬものだと思えた作品が、明日の貴方に又素晴らしいものだと思えて来ることも、この作品の中にも屹度あることと思います。私の作詩の上にも同じことで、従ってこの花詩集の作品は、一篇も残すことなく全作品をそのまま掲載してみました。それは皆様が懐かしい写真のアルバムを作られる様なそんなつもりで編輯してみたものです。

(一応出版業者のため、読者を狙って書いた巻頭言です。)



花と歌

野口家嗣

花にはすべて 想い出が秘められる
花にはそして 美しい歌が秘められている

ほうせん花の花を見ると

五つか六つの頃の自分を想い出す

じみじみとした せまい山村の農家の庭に

私の丈ほど繁っていた ほうせん花を

それは ほうせん花の丈が高いのではなく

その頃の私が まだそれほど小さかったのだ

そしてその花のかけにじっと順番を待っていた私を想い出す

「四六屋のお熊さん 手の上にのせて……」

近所の田舎のお姉さん達が わらべ歌で

その頃の小さな私達を 手の上にのせて

ゆすってくれる順番を 待っていた私を想い出す

月見草の花を見ると

十二才頃の私を想い出す

お母さんに死なれて間もない夏の夕べ

私の家の庭畑に咲いて 私をなぐさめてくれた やさしい花

その月見草の花にあまえて 私は何時も歌っていた

「十五夜お月さん ごきげんさん……」

庭畑の下の池で ピシャリと

大きな鯉が 月の光りに銀色の波をたててはねるまで

泪を浮かべて十五夜お月さんの歌を歌っていた私を想い出す

花にはすべて 想い出が秘められる

花にはそして 美しい歌が秘められている

野 口 家 嗣

一 月 の 花 詩 集

三十一日 三十日 二十九日 二十八日 二十七日 二十六日 二十五日 二十四日 二十三日 二十二日 二十一日 二十日 十九日 十八日 十七日 十六日 十五日 十四日 十三日 十二日 十一日 十日 九日 八日 七日 六日 五日 四日 三日 二日 一日

お ン プ リ ベ ジ ユ ウ ム と
 白 花 カ ー ネ ー シ ョ ン
 チ ェ ラ ン サ ス
 君 子 蘭
 ア フ リ カ ン デ ー ジ ー
 寒 牡 丹
 こ え び 草
 む ら さ き お も と
 は ま ゆ う
 マ ー ガ レ ヅ ト
 小 判 草
 こ け さ ん 草
 ス け ヅ ク
 印 度 ゴ ム の 木
 プ リ 蝶 ム ラ 花
 シ ネ ラ リ ア 菊
 む ぎ わ ら ガ ス
 ア ス パ ラ ガ
 千 宝 べ ん け い 草
 子 宝 べ ん け い 草
 い か だ か ず ら
 ス イ ト ビ
 胡 蝶 リ 蘭
 エ リ 草
 初 雪 か
 ひ の つ か
 万 の 草
 福 寿 草
 葉 ば た 草

三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六

一月の花ごよみ

葉 ぼ た ん

葉ぼたんの 白きその葉に

初春の 今こそ想う

希望ある 年を迎えて

汚れなき 頁をひらく

新らしき 日記のごとし

葉ぼたんの 赤きその葉に

初春の 今こそ想う

暁の 光り燃えいで

ほのかなる 夢ともひらく

美しき 日の出のごとし

花言葉 華 美

花の榮

花のごとき色彩に富んだその葉を觀賞される。主として正月の床の間を飾るに利用される。

草丈七〇センチくらい。六月頃に種子にて蒔く。

1 月 1 日

福 寿 草

1月 2日

小さな鉢の 寄せ植えに
袴をはいた 福寿草
黄色い蕾に 初春の
夢と希望を 迎えてる

万両の赤い 実の下に
袴をはいた 福寿草
きちんとすまして 床の間に
年賀の客を 迎えてる

青葉の手さえ ひざに置き
袴をはいた 福寿草
私と共に あらたまの
この初春を 迎えてる

花言葉 慶 賀

花の葉
一月より開花、新春につつましやかに黄色い花を見せる福寿草は、東洋では正月の花として慶賀の花言葉をもって知られている。但し西洋では悲しみの花言葉であることも知っておきたい。晩秋に株分けして殖す。

1月 3日

万 両

万両が赤い 実をつけた

つけたら つけたで 身をひくく

それゆえ 万両の実がついた

万両が白い 雪かぶる

かぶれば かぶるで 身をさげて

それゆえ 万両の実が目立つ

万両は丈も また伸びる

伸びれば 伸びるで 身をよせて

それゆえ 万両の実が光る

花言葉 慶 祝

花の榮

花としては七八月開花するも、十二月頃より赤く熟した実が美しいので観賞される。常盤の小灌木にて丈は一メートル位になるも枝わかれしない。春種子を蒔いて育てる。

ひのつかさ

幼なき頃に 書いた絵を

ふと偲ばせる 窓の鉢

可愛い その花 ひのつかさ

葉でもないよな 葉が伸びて

花でもないよな 花が咲く

幼なところに 書いた絵を

ふとなつかしく 偲び見る

書いた その絵か ひのつかさ

葉でもないよな 葉がのびて

花でもないよな 花が咲く

1月 4日

花の榮

花言葉 元気がよい

一月より四月頃開花、べんけい草科の多肉植物にて冬は温室か暖かい室内に育てる。丈一メートル位、花は長く伸びた茎の先に輪の様に直径一センチ位の赤い花がつく。さし木にて繁殖する。

初雪草

窓辺に一鉢 初雪草

初雪草は ほらご覧

青き葉さきに 白きふち

雪を見るよな 美しさ

日ざしに伸びる 初雪草

初雪草は ほらご覧

抱く蕾も 白きかげ

雪をいただく 美しさ

ペチカに夢の 初雪草

初雪草は ほらご覧

花の蕾も 白き夢

雪をたたえる 美しさ

花言葉 祝 福

花の葉

一年中開花させられ、葉や花の先端が白いふちどりの斑入りになり、見るからに雪をのせた様に美しい。一年草で草丈は四十センチ位。秋鉢蒔として、冬暖かい室内にて育てるとよい。

1月 6日

エ
リ
カ

エリカ エリカ エリカの花は
お花のお鈴で うす紅色よ

温室いつばい 背たけも伸びて
それでも可愛い お花の鈴は
私のところに かすかに響く

エリカ エリカ エリカの花は
あの娘の目のよに のぞいて咲くよ
私の丈より 背たけも伸びて
それでも可愛い お花の瞳
私のところも こつそり見てる

エリカ エリカ エリカの花は
アフリカ生れよ 夢見て咲くよ
冬さえ知らずに 背たけも伸びて
それでも可愛い お花の蕾
私のところの 扉もひらく

花言葉 柔 軟

花の榮

十一月頃より翌年六月頃まで開花、温室にて育てる。灰色にうす紅を添えた小さな吊鐘形の花が咲く。常緑の灌木にて、丈は三メートルほどになる。さし木にて殖す。

胡蝶蘭

まだら模様の 葉かげから
すんなり伸びた その茎に

春の訪れ 舞姫の

姿しのばす 胡蝶蘭

色もピンクの 花の羽根

並んでひらく その茎に

花の言葉も 幸福の

飛来を告げる 胡蝶蘭

1月 7日

夢を見て咲く 温室の

花ゆえそつと その茎に

指をふれれば かそかにも

春のいぶきの 胡蝶蘭

花言葉 幸福の飛来

花の榮

一月より三月頃の開花、温室花にて長い花の茎に
ピンク色の蝶が飛んでいる様な形の花が五〇個以
上も並んで咲く。水ごけに植えて、夏を涼しく育
てる様にする。

1月 8日

スイトピー

母が飾った 食卓の

中の盛花 スイトピー

丸く囲んで みんなして

祝ってくれた 誕生日

ほしたグラスの ぶどう酒に

うるむ瞳の スイトピー

乙女の夢も あと幾度

ここで迎える 誕生日

花言葉 やさしい想い出

花の葉

一月頃より温室で開花させられるが、自然では五月頃の開花となる。花は赤、紫、黄、白等あつて盛花として非常に美しい。つる性の花豌豆にて草丈は二メートル位、九月頃種子にて蒔くとよい。

1月 9日

い か だ か ず ら

い か だ か ず ら が 温 室 で
夢 を 見 て 咲 く そ の 夢 は

南 ア メ リ カ 川 の 淵

水 を 鏡 に 咲 く 姿

い か だ か ず ら が 温 室 で
夢 を さ ま ぐ る そ の 棘 は

岸 の 茂 み の 青 き かげ

誰 の い か だ を 待 っ て 咲 く

い か だ か ず ら が 温 室 で
夢 に 咲 い て る そ の 花 は

燃 ゆ る ハ ー ト の 花 び ら に

長 い 黄 色 い 花 の つ つ

花 言 葉 燃 ゆ る 思 い

花 の 梨

温室内にて一年中開花する。紅紫色の三枚の苞が
花の様に見られるもので、実際の花はその中に黄
色い筒形に出るのがそれで、常緑の灌木、草丈も
二〇メートル位に伸びる蔓性、さし木などで殖す。

子宝べんけい草

冬の中から 花を持つ

その名も 子宝べんけい草

太った その葉に そのへりに

すき間のないほど 芽がついて

その芽が落ちては 子に育つ

花も知らない 子を連れて

その名も 子宝べんけい草

小筒の その花 その口に

こつそり口紅 つけながら

その子にかまわぬ 花化粧

花言葉 子だくさん

花の葉

一月より三月頃の開花、冬は温室に育てる。多肉植物の一種で、高さ八〇センチ位、葉の端に小さな芽ができて、落ちるとそれが子となって殖える。花は赤味を帯びた筒形にて茎の先につく。

1月10日

1月11日

千 両

千両 千両 千両な

千両なる 木ゆえ

節ごと力 こもつて伸びる

節ごと枝葉 開いて伸びる

千両 千両 千両な

千両なる 実ゆえ

黄色い色も ほんのり添える

黄金こがねに赤い 輝き添える

千両 千両 千両な

千両なる 葉ゆえ

ささえて伸びて 赤い実結ぶ

ささえるその実 鈴なり結ぶ

花言葉 定める

花の葉

常緑の小灌木にて丈は一メートル位、木は枝を
かけて枝さきに五六月頃に花を咲かせる。然し冬に
美しい赤い実を成らせる時こそ観賞される。さし
木又は種子にて蒔いて育てる。